医窓通信 ISOH TSUSHIN

VOL. 49

昭和大学医学部 眼科学講座

教室史とマイナンバー

当教室の歴史は、1928（昭和3）年に創立した昭和大学の前身、昭和医学専門学校開設時にさかのぼります。初代主任教授は鳥山 晃であり、これまで増田 茂（1969年～）、小出良平（1992～2012年）が主任教授として教室を主宰してきました。2012年から眼科学講座に移行し、現在、高橋春男（2012年～）が主任教授に就任しています。

この80有余年の間に、多くの医師が門を叩き、そして臨床、研究の分野で活躍してきました。深道義尚教授時代には、東京都眼科医会主催の野球大会が始まったのをきっかけに、医局員背番号制を導入し、自分の入局した順番を野球ユニフォームに背負うことになりました。まさに「背番号」で、最近の「マイナンバー制度」の先駆けです。

全ての歴代医局員の背番号は永久欠番であり、深道義尚先生が「1」、高橋春男先生が「10」。現在も背番号は連綿と続いており、「225」が最新の背番号です。

高橋 春男 教授

「至誠一貫」のもとに

昭和大学は1928年、前身である昭和医学専門学校として発足しました。同年3月17日に学校設立が許可され、5月15日に附属病院が開院し、以来、多くの医師を輩出してきました。

本学の建学精神は「至誠一貫」であり、今もなお学是として掲げられています。これは、卒業生、在校生の目標とすべき医師像の本幹をなし、さらには人間形成の教訓にもなっています。当教室もこの「至誠一貫」のもとに眼科医療を実践することで、技術的にも精神的にも「実地に役立つ良質な専門医」を育成することを目標としています。

余談ではありますが、当教室より昭和大学学長が2名輩出されています。そのことからも、教室の方針は昭和大学の王道的な教えのもとに立てられていることが必然であると悟られます。「いつ何時であろうと、患者を診る、対応する、断らない」という、今の時代、ややともすれば回避しがちな原則を徹底しています。

紳士淑女の「大きな医局」を目指す

昭和大学には、特定機能病院から単科専門病院まで9つの診療機関が設置されており、そのうち眼科が設置されている病院は4病院あります。各附属病院は、東京都品川区の昭和大学病院から半径20㎞以内（藤が丘リハビリテーション病院17㎞、横浜市北部病院14㎞、江東豊洲病院10㎞）に位置し、各病院間の連携を定期的かつ密接に行っています。

また、各地域と密接に連携し、地域医療の充実に力を入れています。昭和大学病院および藤が丘リハビリテーション病院には眼科専用手術室があり、連日、白内障、緑内障、硝子体手術や眼瞼、眼窩手術が行われています。

大学病院外観

新入医局員の1年次は昭和大学病院に所属し、2年次以降は各附属病院での研修を行います。専門医取得を目標とし、4病院をローテーションすることで、知識や技術の偏りを減らし、専攻医同士の情報共有を行いやすくしています。医局行事も多く、テニス合宿、ゴルフコンペ、野球大会、医局旅行、定期的なディズニーリゾートツアーなど、医局員同士の親睦も深めるようにしています。また、日本眼科学会総会、臨床眼科学会、眼科手術学会での発表時には、懇親会を行い、皆で労をねぎらっています。

「ワイワイガヤガヤ」が似合う医局である一方、眼科医に多い女性医師への配慮も行い、紳士淑女の大医局を目指しています。

眼外傷に力を入れて先進的な医療を行う

昭和大学病院眼科学講座では、第3代主任教授・深道義尚先生の影響もあり、現在もなお眼外傷に対する診断、治療に力を入れています。昭和大学病院には国内では珍しい「眼外傷外来」を設置しています。眼窩骨折は年間約100例、外傷性視神経症に対する視神経減圧術はこれまで約800例の実績があり、国内で最も多い施設の1つでもあります。眼窩骨折の治療としては、上顎洞バルーンを用いた眼窩底骨折整復術、経涙丘眼窩内側壁骨折整復術を行っており、他施設からも見学者があります。

先進的な医療として、現教授の高橋春男は眼科内視鏡開発の先駆者であり、眼内レンズの固定の観察や硝子体手術に内視鏡を積極的に取り入れています。また、現在の難治性緑内障の手術に欠かせない緑内障インプラント手術を1995年から先駆けて行っており、多数の臨床実績があります。

藤が丘リハビリテーション病院眼科は2009年に藤が丘病院から移設され、白内障手術などの眼科手術がより多く実施されています。東急田園都市線沿線からの患者紹介が多く地域に密着した病院です。研究面では水晶体再建に対する臨床研究が多く行われています。チン小帯脆弱例に対するカプセルエキスパンダーは、谷口重雄名誉教授らが中心となって開発され、多くの臨床実績があります。

横浜市北部病院は、横浜市営地下鉄のセンター北駅を中心とした新しい市街地に立地しています。網膜硝子体手術、特に難症例を多く手がけています。大学附属病院では唯一、角膜内皮移植（DSAEK）を行っている施設でもあります。

江東豊洲病院は、2014年に開院した最も新しい附属病院であり、周辺には高層マンション群が立ち並び、隣接地域には築地市場が今後移転してきます。臨床面では、加齢黄斑変性に対する抗VEGF薬の臨床研究を多く行っています。

昭和大学医学部
眼科学講座 主任教授
高橋 春男
（文責・同講座准教授・医局長 恩田 秀寿）